令和６年度　幼児教育研修（資質向上　松山ゼミ）
「見直そう　計画と記録」

日時：第１回　令和６年　６月１１日（火）会場：足立区生涯学習センター
日時：第２回　令和６年　７月　９日（火）会場：足立区勤労福祉会館
日時：第３回　令和６年１０月　１日（火）会場：足立区勤労福祉会館
日時：第４回　令和６年１１月１５日（金）会場：足立区勤労福祉会館

講師：和泉短期大学　　教授　松山　洋平　氏

子どもの世界を横並びで見た時の、心揺さぶれたことを写真で持ち寄り、それを基に記録を作成していくことを学びました。そして、記録したことが計画につながっていくということを実践しながら学び、深めていきました。

保育記録には多様な種類がある

ラーニングストーリー
ニュージーランドの「テファリキ」などで採られている手法。
学びの物語と言われ、子どもの学びを見取る視点が示されている。

ポートフォリオ
子どもの育ちを記録し、それを蓄積していくもの。

保育マップ型記録
保育環境図に子どもの遊びの様子を書き込み、指導計画につなげる記録方式。

エピソード記述
子どもの行動を観察してエピソードとして記録し、その意味を見出すという手法。

ドキュメンテーション
写真を用いた記録。保育者自身の振り返りのツールである他に、子ども、保育者同士、保護者や地域の人との多様な関係性の中での「対話」のツールにもなる。

保育ウェブ
子どもの遊びや活動において、大切にしたいキーワードを中止として、子どもの興味・関心を読み取りながら、子どもの姿を予測してそこから連想される様々な事柄を連続的・発展的に自由に書き加えていくもの。
常識や固定概念にとらわれず、今自分が何を面白がっているのか、どんなことを大事にしたいと思っているのか、自分で確認するものとして気軽に作成してみよう。

環境を通して行うために、子どもの主体的な活動を促すために、何を記録し共有するのか、記録の方式の特徴を知り、園にあったよりよい在り方を探ることが大切。

フォト・カンファレンスをやってみよう
～写真を通しての「語り合い」を基に子どもの思い・育ちを読み取ってみよう～

子どもの姿を見て見て!という感覚で写真にタイトルや簡単な説明と吹き出しを付ける。
吹き出しは･･･
子どもの「ことば」「心の声」。
保育者に見えてくる「子どもの気持ちや育ち」である。

対話が生まれる

写真を語る
写真を選んだ理由、子どもが経験していること、今後どのような経験をしてほしいと願うこと。
聞いた人
自分にはどう見えたか、吹き出しを付け足す。多様な見方や多角的な子ども理解へつなげる。

ポイント

保育の質は「**対話**」で決まる。質を高めるためには、心を開いた保育の語り合いが必要。「省察」し、多様な他者と共に子どもを語り合うこと。保育者の成長には、多様な他者に対してその身体が開かれ、共感的な場を築き合っていくことが欠かせない。保育を語り合う「**対話**」がキーワードになる。

**ドキュメンテーションを作成するイメージで
ポスターを作ろう**

ドキュメンテーションの作成方法とPOINT

・体験して心に感じたこと、心揺さぶられたこと、「すごい」「面白い」など、「他の人にも見てほしい」と思う子どもの表情や様子を写真に収める。
・写真を選ぶ。選んだ理由や伝えたいことと関連していく。写真自体が語ることをサポートする気持ちで選ぶ。
・「私はこう思った、こう感じた、こうした」というIメッセージが重要。

取り組みの過程が見えるようにするために・・・

・写真や記録をそのまま貼り付けるのも良い。
・実際にどんな取り組みをし、その結果を描く。
・変化していく子ども、自分たちの姿を描く。
うまくいった話だけでなくてよい。
大事なことは、個々の取り組みの過程を具体的に描き、そこから得られた「手応え」や「課題」を示すこと。

記録の取り方を実践することで、記録と計画のつながりを学ぶことができました

記録や計画は・・・
多様な異なる視点や眼差しとの出会いが対話の場である。子どもの姿から見える価値や意味の再発見や自ら子どもを見る見方や保育の振り返りにつながる。更に文脈に即して、自分や自園の課題もみえてくる。

では学びを生み出すような対話は？

・お互いの価値を認め、受け入れる語り合いが対話となる。その中で、新たな気付きや学びの可能性が生まれてくる。
・保育士等が保育の記録や経過を互いに見合うことは、より多面的な子どもの理解や保育の評価につながる。
・記載方法は、「園としてどのようなことに重点を置いて保育を捉えていくか」という評価の方向性について共通理解をつくる。

評価は他者によって良し悪しや出来不出来を決められたり、計画通りに出来たかどうかを採点することではない。日々の保育実践の意味を考え、次のよりよい実践へとつなげていくために対話と共に振り返るものである。

評価＝保育者による日々の実践の「振り返り」が基盤となって、子どもの姿を記録、対話し、明日の保育の計画につながるサイクルをしているかということである。

つまり・・・

**記録や計画を通して対話をする。記録が変われば対話も変わる。記録の内容が変われば対話の内容も変わる。
記録の視点が変われば対話の視点も変わる。対話の視点が変わると計画が変わる。**

研修生の報告書より

ポスター作りを通して、日々の保育を見つめ直し振り返るきっかけとなり、貴重な時間となった。今後の課題を実践している研修生の発表があり、役立てていこうと刺激になった。今まではグループワークを中心に行ってきたが、他のグループの研修生とも話すことができ、対話の大切さを更に感じた。対話が増えることで新たな発見や気付きがあり、記録も内容が濃く広がっていくと知った。

週に1回、連絡帳に写真を添付して配信しているが、写真に関することを簡潔に記すよう意識した。保護者から「わかりやすい」「楽しみにしている」と声があった。写真があると伝わりやすさが変わると改めて実感した。また、会計年度職員とも話す時間を作り、何気ない会話からでも時間のある時に声を掛けてくれることも増えた。対話は記録につながると学んできたが、信頼関係にもつながってくと感じた。